

知っていますか？ 人の命を救うボランティア 「献血」のこと



健康
情報
コーナー

400ml 献血に
ご協力をお願いします。

献血は、病気の治療や手術などで輸血を必要とする人を救うため、健康な人が自らの血液を無償で提供するボランティアです。

命を救えるボランティア。日野町でも献血を行います。

〈期日〉 **10月4日(水)**

〈会場と受付時間〉

- ◆午後1時～午後2時：日野振興センター
- ◆午後2時30分～午後4時：日野町役場

1人でも多くの協力をお待ちしています。

【問合せ先】町健康福祉センター（電話 72-1852）



献血ができる基準

- ▼年齢：男性 17歳～69歳まで
女性 18歳～69歳まで
※65歳以上は、60代で献血経験がある人に限ります。
- ▼体重：男女とも 50kg以上
・その他、服薬状況などについては、当日受付でお尋ねください。

9月20日～26日は

「動物愛護週間」です



動物の愛護と適正な飼養についての理解と関心を深めるため、毎年9月20日から26日まで「動物愛護週間」を設け、全国でさまざまな取り組みが実施されます。

「動物の愛護および管理に関する法律」の改正により、令和4年6月からマイクロチップの装着と情報登録が義務化されるなど、飼い主の役割が大きくなっています。マイクロチップを装着することにより、災害時など迷い犬が飼い主のもとに戻ることが期待されます。

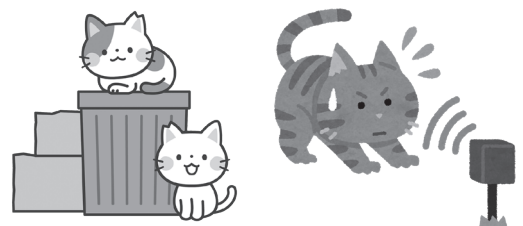
動物を新たに飼い始めるときには、飼い主としての役割をしっかりと理解し、ペットが幸せな生涯を送れるよう準備してから迎え入れましょう。

町では、各種助成を実施しています。

- ▼野良猫の不妊・去勢手術費用の助成
- ▼ガーデンバリア（猫よけ器）の貸し出し
- ▼ガーデンバリア購入費用の助成

詳細は、役場健康福祉センター（電話 72-1852）までお問い合わせください。

※飼い猫の不妊・去勢手術費用、犬猫のマイクロチップ装着費用の助成事業は、鳥取県獣医師会で開催されています。詳しくは、鳥取県獣医師会（電話 0857-53-4300）へ直接お問い合わせください。



胆のうポリープと胆のうがん —小さいときはみんなかわいく見えてしまう

日野病院 病院長 孝田 雅彦



日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。

正しく知ろう 胆のうポリープの種類

みなさんは人間ドックや通常の診察で、腹部超音波検査を受けられたことがあると思います。その中で「胆のうにポリープがありますよ」と言われた人も多いのではないのでしょうか。胆のうポリープと聞いてドキッとした人、何だ！ポリープかと思った人、どちらの人も、正しく胆のうポリープを知ってもらいたいと思います。

胆のうポリープはよくみられる疾患ですが、胆のうポリープと言われているものは、実はコレステロールポリープ、炎症性ポリープ、

過形成ポリープ、腺腫性ポリープ、初期の胆のうがんが混じっています。コレステロールポリープが9割を占めますが、怖いのは初期の胆のうがんである小さい胆のうがんが混じっていることです。

コレステロールポリープ、炎症性、過形成ポリープは良性ですので心配はありませんが、腺腫性ポリープは中になんかができることがあるので、腺腫性ポリープと初期の胆のうがんが重要です。典型的な形をしたコレステロールポリープであれば超音波検査で区別がつかますが、区別の難しい例も多く、確実な診断は困難です。

胆のうがんは小さくても 油断しないで

ではどうすればいいでしょう。それは定期的に大きさをチェックすることで。良性の3つのポリープは、大きさが10mmを超えることはほとんどありません。つまり、大きさが10mmを超えれば胆のうがん、悪性の可能性が極めて高くなります。

胆のうがんは小さいときにかわいい顔をしていても、少しずつ大きくなり本性を現します。私の外来では、初めて胆のうポリープと診断したとき、大きさが6mm以下であれば6カ月後に、6〜9mmであれば3カ月後に超音波検査を再度行います。10mm以上のポリープはがんを疑って、MRI検査、超音波内視鏡検査を行っていきます。6mm以下であつたポリープが徐々に大きくなって10mm以上になつた時も同じように精密検査を行い、15mmを超えた場合は基本的に手術で胆のうを切除します。

実際にこれまでたくさん胆のうポリープの患者さんを見てきましたが、6mm以下から8mm、13mm、16mmと徐々に大きくなり、手術をしたらポリープの半分くらいががんであつた例がありました。もちろん、早期に治療できたのでその後再発はありませんでした。

胆のうポリープと言われたら、必ず主治医の先生の指示に従って定期的な超音波検査を受けてください。多くの場合、数年経過を見

て、大きくならなければがんの可能性は極めて低くなります。それでも、年一回はチェックをすることをおすすめします。

胆のうは壁が非常に薄い袋状の臓器ですので、がんができるるとすぐに周囲に浸潤、転移するため、大変予後が悪い病気です。しかし、日ごろから検査を受ければ決して怖い病気ではありません。

胆のうポリープは一般的な疾患ですが、中にはがんの可能性もあります。そのため、定期的な超音波検査を受けて大きさや形をチェックすることが重要です。超音波検査は簡単で安全な検査ですので、胆のうポリープと診断された人は必ず主治医の指示に従ってください。

